

かお・人・interview

2020年5月27日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
佐賀国道事務所 所長

小串俊幸氏

toshiyuki OGUSHI

福岡と長崎の県境に位置する佐賀県。ここを管轄する佐賀国道事務所は、高規格幹線道路の西九州自動車道のほかに、国道3号、34号など、人口約81万人が生活する上で重要な幹線道路の管理・整備を担っている。前年度に引き続き、幹線道路ネットワークの強化、交通混雑の緩和、整備や維持管理など、安心・安全・快適な道路づくりを目指す。現在取り組んでいる事業や課題などについて小串所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

所長として就任した佐賀国道事務所は、今回が初めての勤務となりますが、佐賀の更なる発展に寄与できるよう、道路インフラの整備、管理の面で職務に邁進して参ります。道路は、社会経済活動を行う上で最も基盤となるインフラの一つです。様々な目的で道路を利用される方々の安全性・快適性を向上させていくことが、道路管理者の使命だと思っています。

また、佐賀県内はもとより、九州の幹線道路ネットワークの一部を形成する、西九州自動車道や国道3号、34号、203号などの道路整備も、当事務所の重要な任務の一つであり、それぞれの道路整備の役割や必要性について、関係機関などと連携しながら取り組んでいくことが重要と考えています。



▲西九州自動車道

Q 九州や福岡県とのかかわり

九州各县で勤務してきましたが、一番に思い浮かぶのは有明海沿岸道路出張所長時代です。当時の目標は、徳益から柳川西への4.5km区間を2年後に開通すること。重要な事業でしたので、計画通りに遂行し結果を出せたのは大きな自信になりました。

他に、延岡や佐伯も懐かしい思い出がたくさんあります。たとえば、佐伯河川国道事務所在職中には東九州自動車道が国





鳥栖は九州縦貫道、横断道が交差する
物流ネットワークの要です。
早急な交通渋滞の緩和を期待されています。

の直轄事業となり、早期整備に向けた地元の熱意が円滑な事業推進の後押しとなりました。道路整備を行うにあたっては、地元の皆様の大切な財産である土地をお譲りいただくわけですが、道路整備に期待する反面、思い入れのある大切な財産を手放すという決断するのは難しいことでもあります。工事の説明会などで地域の皆様から頂いたさまざまなご意見・ご要望にしっかりと寄り添いながら事業を進めることで早期に開通することができました。

Q 佐賀県の交通ネットワーク

佐賀県は、九州の北西部に位置し、日本海(玄界灘)と有明海の2つの海に面し、県央には脊振山系から広がる佐賀平野を有すなど、自然環境に恵まれた地域です。また、県西部には焼き物で全国的に有名な有田町・伊万里市・唐津市があり、県南部には温泉で有名な嬉野市・武雄市や人気の高い日本酒の酒造を擁する鹿島市などがあります。交通関係では、九州縦貫道、大分、長崎自動車道、国道3号、34号が交わり、九州の物流拠点となっている鳥栖市があります。



一方で、佐賀市・鳥栖市・唐津市・伊万里市など県内主要都市が離れた位置に点在することから、分散型の県土で形成されているという特徴があり、そのため、県内主要都市を結ぶ道路ネットワークの要望も多く寄せられています。

Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

佐賀国道事務所は、昭和7年に国道34号の改良工事を担当する佐賀国道工事事務所として設置され、平成15年に佐賀国道事務所へ改名しました。佐賀県内における唯一の直轄国道事務所であり、現在は安全かつ円滑な道路交通の確保を目的としています。

高規格幹線道路である西九州自動車道や、直轄管理区間である国道3号、34号、202号、203号等を含めた7路線、約233kmの新設・改築・無電柱化・交通安全施設等整備事業及び維持管理等を行っており、武雄、鳥栖、唐津の3つの出張所で管理を担当しています。

Q 今年度の事業概要

令和2年度の予算(当初)は、改築事業費が33億1,000万円(前年度比83%)、交通安全事業費が13億6,900万円(同111%)、電線共同溝事業費が7,900万円(同71%)の合計47億5,800万円(同89%)。その他の予算として維持修繕費や調査費などがあります。

西九州自動車道は、高規格幹線道路網の一環として、福岡市から唐津市・伊万里市・佐世保市を經由し



▲西九州自動車道(白野地区)



▲西九州自動車道（ミッシングリンク）

格道路であり、県内の広域的な幹線道路ネットワークを形成するとともに、主要都市の佐賀市・九州佐賀国際空港と唐津市を結ぶ基幹となる道路のひとつです。物流や観光振興、災害時における緊急避難路としても重要な役割を担う道路であり、また、西九州自動車道、九州横断自動車道、有明海沿岸道路を繋ぐことにより、県内のみならず、福岡、長崎、熊本方面への新たな道路ネットワークが形成され、広域的な交流、連携も期待されています。

て武雄市に至る延長約 150 kmの自動車専用道路であり、九州北西部の広域的な地域間の連携を図り、地域の活性化に寄与するとともに、物流の効率化・機能強化に大きく貢献しています。整備によるストック効果としては、伊万里市で、木材コンビナートから福岡県への集成材出荷量が増加、また、隣の長崎県においても、松浦市で獲れた「まあじ」の取扱量が福岡市場で増加しているなど、今後も整備が進んでいくとともに、更なる効果が期待されています。

現在、「伊万里道路」の伊万里東府招 IC～伊万里西 IC(仮称)間と「伊万里松浦道路」の伊万里西 IC(仮称)～山代久原 IC 間について、早期開通に向け、事業を推進しています。

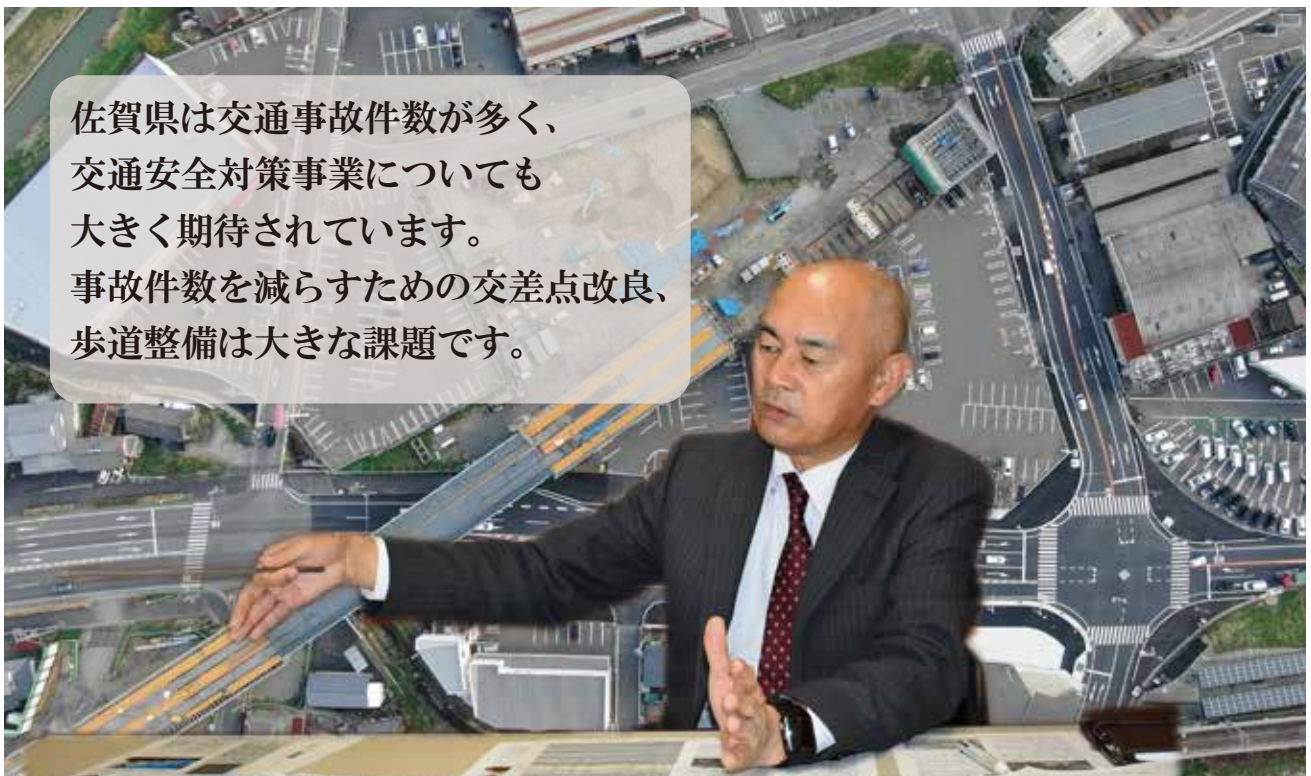
国道 203 号佐賀唐津道路は、約 40km の地域高規

その他の改築事業では、交通交雑の緩和と安全対策として、国道 3 号鳥栖拡幅、鳥栖久留米道路、国道 34 号神埼佐賀拡幅、武雄バイパス整備などの事業も推進しています。

また、佐賀県は交通事故件数が多く、交通安全対策事業についても大きく期待されています。

事業の一例として平成31年3月に完成した国道34号下西山交差点改良事業(武雄市)においては、事故防止対策を目的として右折レーン設置、線形改良及び歩道整備を行った結果、事故件数が、年間約2件程度削減されました。現在事業中の箇所についても、事故件数を減らすため、早期完了を目指して推進しています。

道路利用者に安全に、また安心して利用してもらうため、道路の維持管理として、路面や道路植栽の維持、防災対策等を行っています。また、道路施設のメンテナン



佐賀県は交通事故件数が多く、交通安全対策事業についても大きく期待されています。事故件数を減らすための交差点改良、歩道整備は大きな課題です。

スにおける地方公共団体への支援として、緊急かつ高度な技術力を要する施設について行う「直轄診断」を平成 27 年度に九州で初めて唐津市の呼子大橋で実施し、平成 28 年度から制振ワイヤ更新などの修繕代行事業を行っています。

Q 地域との連携・協働について

道路の整備や維持管理は、線ではなく面的に取り組むことが大切です。そのため、道路の使われ方について、地域特有の課題やニーズを知ることが大事であり、単に、渋滞や事故解消目的で、道路整備や維持管理をするのではなく、地域の方々、道路利用者との対話が必要だと考えています。

また、道路は高速道路や国道、県道、市道・町道などと一体となって利用されており、道づくりを進めるには、それぞれの道路管理者である佐賀県や地方自治体などの日頃からの連携が重要と考えています。災害時に先頭に立って、復旧や保全活動をお願いする建設産業界との連携も特に重要と思っています。

「道守」の方々は、道を舞台にして地域やボランティア団体などの方々と行政と協働し、活動を行われています。道守活動の一環として、毎年 2 月に開催されている道路清掃「佐賀城下ひなまつり おもてなし清掃」に私も今年、参加させていただきましたが、大きな目立ったゴミは落ちておらず、道路が綺麗に保たれており、道路を汚したり、ゴミなどを捨てない「こころ」が地域に根付いていることを実感しました。道に草花を育て、清掃し、清潔で美しい町づくりや道のあり方などを考える活動が、道路愛護の心を育むことに大きく寄与しているのだと考えます。今後も道守の方々と相互に協力しながら、更なる連携を図っていきたくと思っています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

元号が平成から令和に代わり、新たな時代が始まりましたが、公共事業と建設業界を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況が続くことが予想されます。業界は



▲道守の方たちと一緒に活動

高齢化が進み、担い手の確保は重要な課題となっており、i-constructionなどの新たな取り組みについて情報を発信・推進し、建設現場の生産性や質の向上を図っていくことが重要だと考えます。

建設業に従事する皆さんは、地域を支える非常に重要な役割を担っています。公共工事を受注し、施工していただくことをはじめ、災害発生時には、いち早く現場で活動し、復旧復興にご協力いただいています。昨年 8 月に発生した豪雨においても、たくさんの建設業者さんに昼夜を問わず現地対応していただいたおかげで早期復旧を実現することができました。いざという時に現場力を発揮するのは地域の建設業者さん

だと思っています。我々発注者も、日頃から皆さんと意見交換し、協力し合いながら、「よりよい佐賀」を目指していきたいと思っています。

Q 趣味や健康法について

好きな言葉は ONE TEAM (ワンチーム) です。厳しい状況であっても、お互いを信頼しひとつの目標に向かって一丸となる。その精神性を大事にしたいと思っています。

趣味はゴルフです。健康維持も兼ねてコースに出るようにしています。自分の気質に合っているのでしょう、約 30 年続けていても興味は尽きません。今だに、飛距離アップのためにフォームの改造に取り組むなど、試行錯誤しながらゴルフを楽しんでいます。

プロフィール



出身地：福岡県出身
 生年月日：昭和 37 年 9 月 26 日 (58 歳)
 S56 年 4 月 建設省入省
 (九州地方建設局
 耶馬溪ダム工事事務所に入省)
 H17 年 4 月 佐伯河川国道事務所 調査第二課長
 H19 年 4 月 延岡河川国道事務所 工務第二課長
 H24 年 4 月 福岡国道事務所 有明海沿岸道路出張所長
 H28 年 6 月 道路部 道路工事課長
 H30 年 4 月 道路部 道路情報管理官
 H31 年 4 月 現職